

# 大津企業景況調査報告書

(第79回)

平成29年10月～12月期 実績

平成30年 1月～ 3月期 見通し

大津商工会議所

# 大津企業景況調査について

(平成29年10月～12月期)

## 1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 155 社に F A X 方式による調査

## 2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	17社	11社	64.7%
卸 売 業	13社	9社	69.2%
小 売 業	38社	23社	60.5%
サービス業	59社	32社	54.2%
建 設 業	28社	15社	53.6%
合 計	155社	90社	58.1%

## 3. 調査期間

調査対象期間は平成29年10月～12月とし、調査時点は平成29年11月15日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

## 景況感は改善傾向が続く

平成 29 年 10 月～12 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

### 全体

景況感は、全体の業況判断 DI（前年同期比）が平成 28 年末にマイナス 2 ケタからマイナス 1 ケタになって改善が続き、今四半期も▲3 とプラスにはならなかったが改善傾向が続いている。業種別では、サービス業がインバウンド（訪日外国人）消費の増加等により好調が続き、需要の拡大から製造業が 4 年ぶりにプラスに転じ、他の業種ではやや悪化した。全業種で人手不足感がさらに強まっており、企業においては人件費負担が増加している。

先行きの業況判断 DI は▲1 と引き続き改善を見込んでいる。業種別では、好調なサービス業を除いて横ばい、または悪化するものと見込んでいる。全業種で人手不足が続くとみており、特に外食や運輸などサービス業においては深刻である。雇用の逼迫が先行きへの懸念材料になっている。製造業等では省力機械の導入が外食産業等では営業時間の見直し等が課題になってくる。

### □ 業況判断 DI（前年同期比）は、景況感は改善傾向が続く

「前年同期比でみた業況判断 DI（全体）」（「好転」－「悪化」）は改善が続き、今四半期も▲3 と今一步プラスにはならなかったが改善傾向が続いている。業種別では、サービス業がインバウンド消費の増加等により好調が続き、需要の拡大から製造業が 4 年ぶりにプラスに転じ、他の業種ではやや悪化した。

### □ 売上 DI（前年同期比）は、前年並みまで改善。サービス・卸売・製造業はプラス

「前年同期比でみた売上 DI（全体）」（「増加」－「減少」）は、±0 で前年並みとなった。業種別にみると、サービス業がインバウンド消費の好調等から引き続き増加し、卸売業、製造業増加したが、建設業、小売業はマイナスであった。

### □ 採算 DI（前年同期比）は、悪化。材料（仕入）価格の上昇を販売価格に転嫁できず

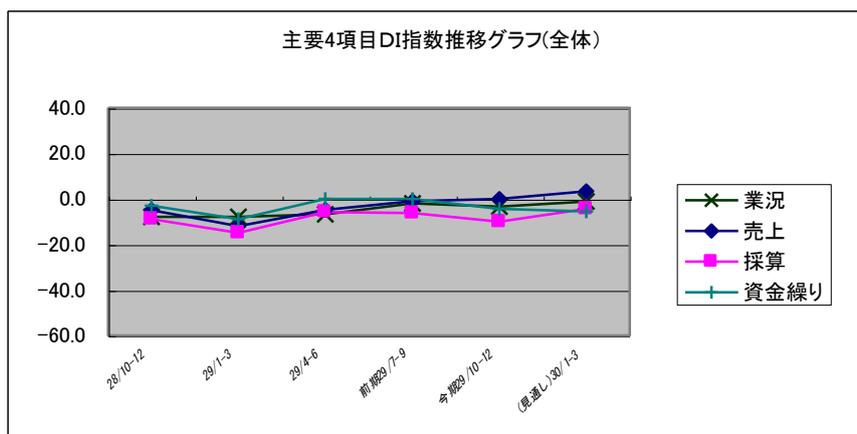
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI（全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期▲6 から今四半期▲10 と悪化した。業種全般に原材料価格の上昇や仕入れ価格の上昇を販売価格に転嫁できていないことによるとみられる。

### □ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は、やや悪化

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI（全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期±0 から今四半期▲4 とやや悪化した。長期資金、短期資金の借入易さも前四半期とほぼ変わらずであった。

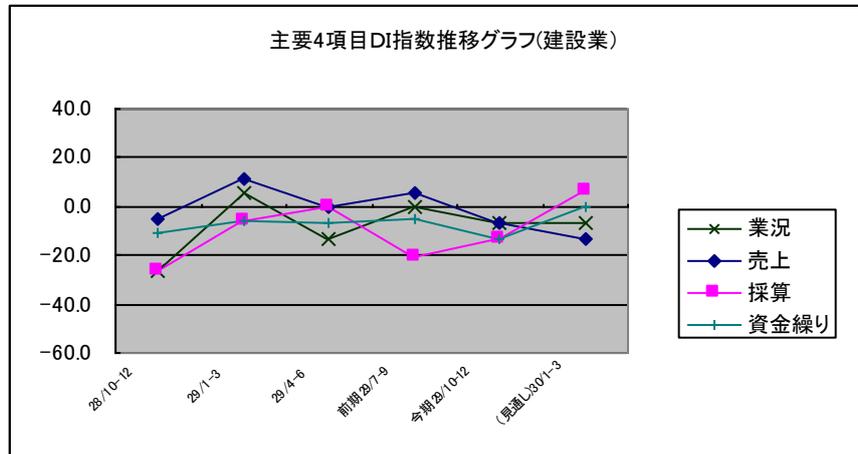
### □ 従業員 DI（前年同期比）は、人員不足感が強まる。サービス業、卸売業で深刻

「前年同期比でみた従業員 DI（全体）」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の+22 が今期+29 と人員不足感がさらに強まった。業種別にみると、外食や運輸などサービス業や卸売業においては深刻である。製造業等では省力機械の導入が外食産業等では営業時間の見直し等が課題になってくる。



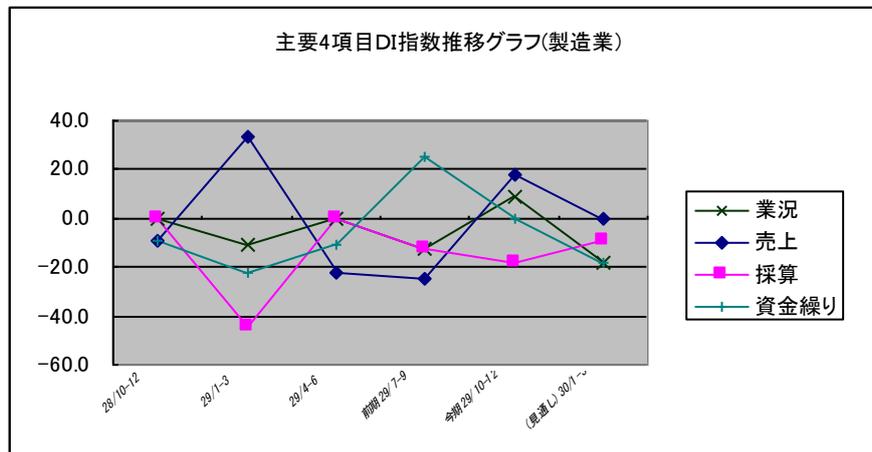
## 建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の±0 から今四半期は▲7 とやや悪化した。個別指標をみると大津北部地区の台風被害復興需要等があったとみられるが「売上」が前四半期の+5 から今四半期▲7 と減少し「採算」も悪化している。「問い合わせ」は前四半期並みである。「従業員」は大幅な人手不足が続いている。



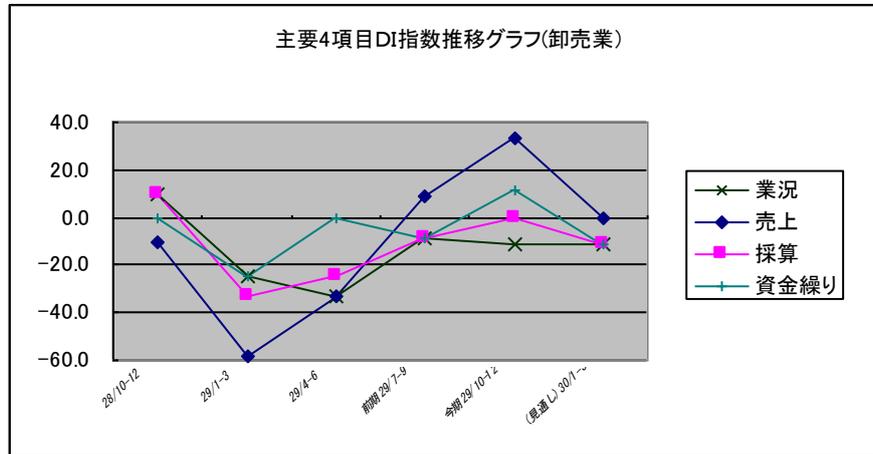
## 製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲13 から今四半期は+9 に改善しプラスに転じた。個別指標をみると「売上」は需要拡大により前四半期の▲25 から今四半期+18 と増加したが、「採算」が原材料の高騰により前四半期の▲13 から今四半期▲18 と悪化した。「従業員」は前四半期の過不足なしから今四半期は+18 と不足している。



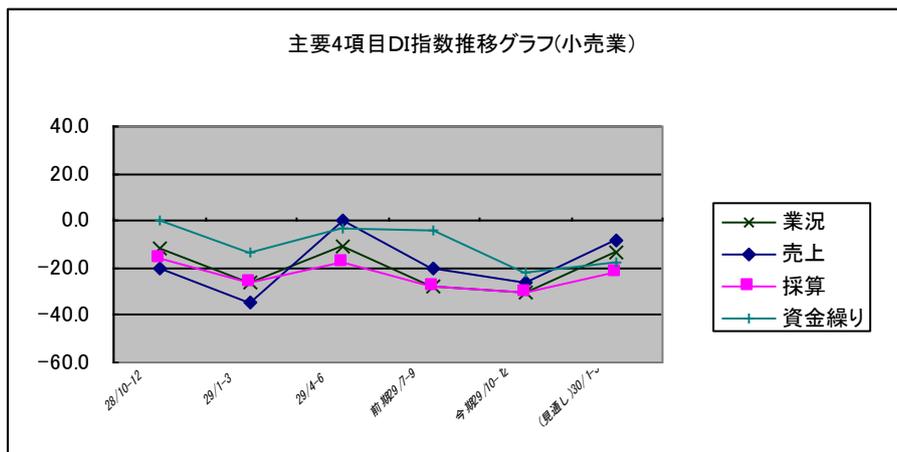
## 卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲9 から今四半期は▲11 とやや悪化した。個別指標をみると「売上」が今四半期は+33 と大幅に増加し、「採算」は前年並みだったが、「従業員」が今四半期+44 と深刻な不足になっていることが景況感につながっているとみられる。



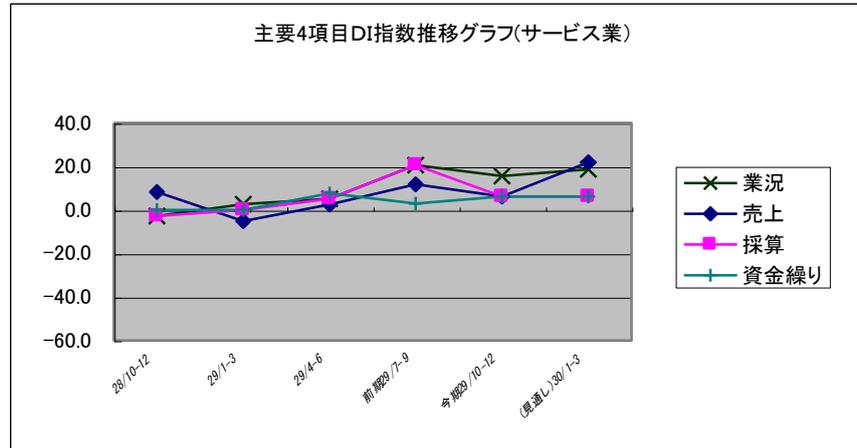
## 小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲28 から今四半期は▲30 と悪化した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲20 から今四半期は▲26 とさらに減少し、「採算」も▲28 から▲30 へ悪化している。「問い合わせ」も低調である。ネット通販の増加等、競争激化による影響が出ているとみられる。「従業員」は人員不足感が続いているが、求める人材と求職者のミスマッチが起こっているとみられる。



## サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期に+21 から今四半期も+16 と好調が続いている。個別指標をみると「売上」は前四半期+12 から今四半期+6 と引き続き増加し、「採算」も良好である。「従業員」は求める人材が不足し人員不足が深刻になっている。業況の良化は、景気回復によるレジャー等の増加やインバウンド消費の増加等によるものとみられる。



来四半期（3ヵ月後）の「業況」DIは、今四半期の▲3から▲1とプラスに近づく改善をするとみている。

個別指標をみると、「売上」が±0から+3へやや増加し「採算」も▲10から▲4へ改善すると見込んでいる。「従業員」は+29から+23と人員不足は続くとみている。業種別「業況」DIでは、サービス業が+16から+19と好調に推移し、小売業は▲30から▲13とマイナス幅が縮小するが、製造業は悪化に転じ、その他の業種は今四半期と同じと見込んでいる。中小企業では労働力不足が人件費の上昇につながり、先行きへの懸念材料になっている。製造業等では省力機械の導入が外食産業等では営業時間の見直し等が課題になってくる。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は23%で、3ヵ月前より1ポイント減少した。業種別にみると、製造業が最も高く36%、小売業が30%、サービス業が22%である。投資する企業の投資内容の割合は、「更新投資」が52%で最も多く、「生産力増強」が28%と前向き投資が出てきた。「合理化・省力化」は4%と少ない。投資方針は、「計画通り」が52%で、「景気により見直す」が39%となっている。

景気の改善傾向が続く中で、ようやく前向きな「生産力増強投資」が製造業、卸売業、小売業、サービス業で出てきたことが、企業の投資姿勢の転換になるか注目される。

田中マネジメント事務所  
MBA・中小企業診断士 田中清行

## (今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- 最低賃金が上昇していくのは、とてもつらいです。もうこれぐらいにしてほしいです。  
(製造業)
- ハード売上げ（商品）よりソフト売上げに移行（小売業）
- ニーズの動機が自分からではなく、ネットなどからの他人の評価を判断基準として買う事の決定がされる。自分で決められないお客様が確実に増えてきている。これは、チャンスでもあり、リスクだなと感じます。（小売業）
- 人が少ない、余っている人はいい人材がない（小売業）
- 海外で稼ぐ企業が多い中、国内では人件費の上昇がネックとなっている。「モノ消費」より「コト消費」に動いている。「生産力向上」と「人づくり」がカギになるだろう。  
(サービス業)
- 政治が徐々に投資傾向（大津市内整備 161 号整備の推進）にあり、暗く無駄だった「もったいない」思想から発展的に推進することに期待したい。このことが景気拡張につながるものと考えられる。（サービス業）
- イベント業なので、日雇い人材がほしい！以前と比べて確保が非常にむずかしい。  
(サービス業)
- 台風被害が大津北部地区で多発、瓦屋根、トコ、板金等、注文が増大、復旧事業が年越しになりそうです。（建設業）

以 上

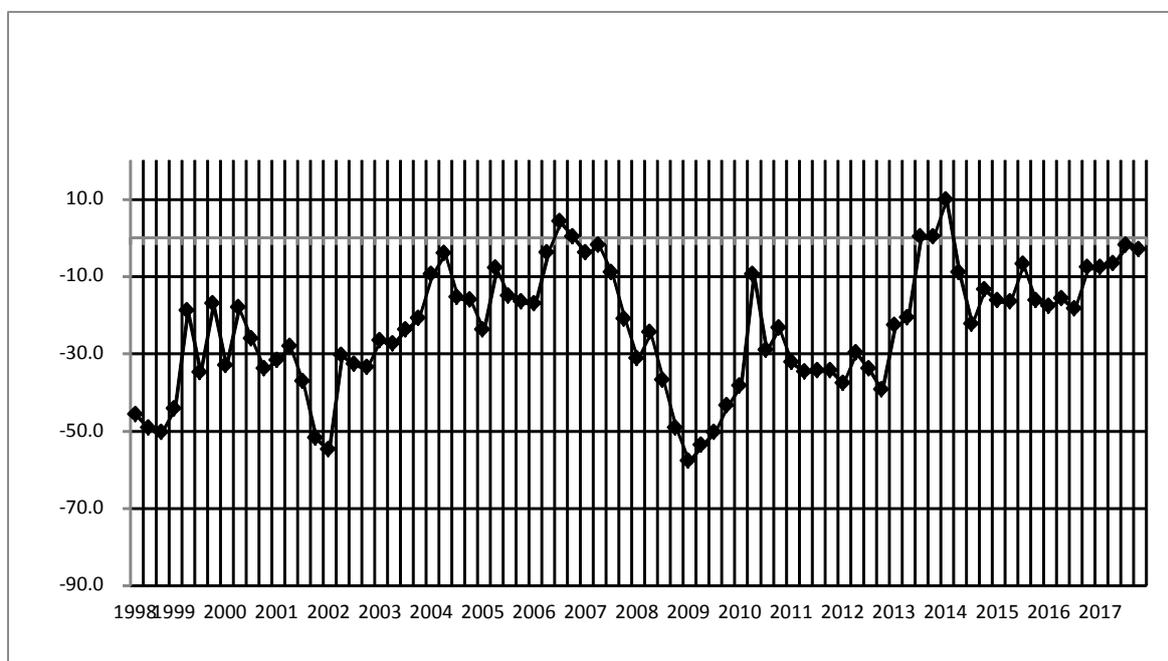
## DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	▲3.3	▲1.1	0.0	3.3	▲10.0	▲4.4
建 設 業	▲6.7	▲6.7	▲6.7	▲13.3	▲13.3	6.7
製 造 業	9.1	▲18.2	18.2	0.0	▲18.2	▲9.1
卸 売 業	▲11.1	▲11.1	33.3	0.0	0.0	▲11.1
小 売 業	▲30.4	▲13.0	▲26.1	▲8.7	▲30.4	▲21.7
サービス業	15.6	18.8	6.3	21.9	6.3	6.3
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	17.8	13.3	▲15.6	▲20.0	28.9	23.3
建 設 業	6.7	0.0	0.0	▲20.0	20.0	13.3
製 造 業	27.3	0.0	▲27.3	▲27.3	18.2	27.3
卸 売 業	22.2	0.0	▲11.1	▲33.3	44.4	11.1
小 売 業	▲13.0	4.3	▲30.4	▲17.4	17.4	17.4
サービス業	40.6	34.4	▲9.4	▲15.6	40.6	34.4
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全体	▲4.4	▲5.6	5.6	1.1	4.4	3.3
建設業	▲13.3	0.0	▲6.7	▲6.7	▲6.7	▲6.7
製造業	0.0	▲18.2	18.2	▲9.1	18.2	0.0
卸売業	11.1	▲11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業	▲21.7	▲17.4	4.3	▲8.7	4.3	▲8.7
サービス業	6.3	6.3	9.4	15.6	6.3	18.8
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

## 大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>